

国際ロータリー第2500地区 第3分区

INTERCITY MEETING

都市連合会報告書 2013 | 2014



ASAHIKAWA MORNING ROTARY CLUB

RIテーマ
ロータリーを
実践し
みんなに豊かな人生を

日時 2014年4月5日(土)
会場 ロワジールホテル旭川

ホストクラブ
旭川モーニングロータリークラブ



IM(都市連合会)～Intercity Meeteingの目的

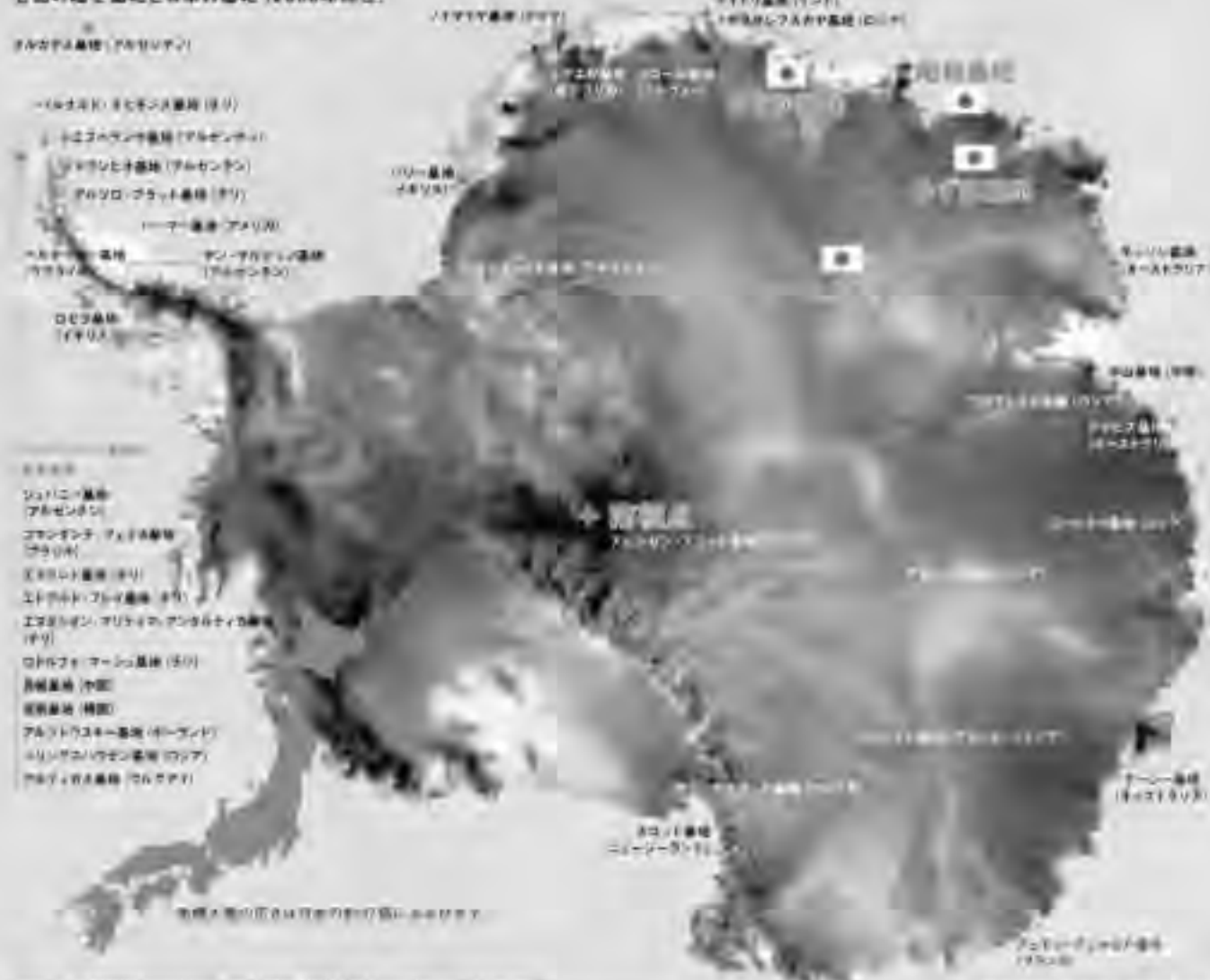
同一エリア内のRC会員同志が集い
 気軽に楽しい雰囲気の中で話し合い、語り合う事。
 更にその中からロータリーを学び同時に友情と親睦を深める事である。

Intercity Meeteingの談話

最初はICGF[Inter-City General Fourm]都市連合フォーラムと呼ばれていましたが、後にIGF[InterCity General Fourm]と名称が変更され、勉強と親睦を深める会合として定着していました。その後経済的理由からIMを実施するか否かはガバナーの裁量に委ねられました。
 我が国においてはガバナー補佐が置かれたこともあり、すでに完全定着した素晴らしい会合ではあるが、再度地区内プログラムとして検討を加えながら継続したいものです。

基調講演「南極越冬物語」環境の鍵を握る氷の大陸資料より

各国の越冬基地と日本の基地(2009年現在)



写真提供: 国立極地研究所「南極観測」

2013～2014年度 RI第2500地区 第3区分

INTERCITY MEETING PROGRAM

IMテーマ
 環境と
 水資源

- 13:00 登録(3Fボールルーム)
- 14:00 開会式 総合司会(SAA) 宮 永 憲 一
 IMリーダー 友 重 正 親
 ソングリーダー 妹 尾 佳 晴
- 点鐘
 - 国歌斉唱「君が代」
 - ロータリーソング「奉仕の理想」
 - 開会のことば IM実行委員長 武 田 昭 宏
 - 歓迎の挨拶 ホストクラブ会長 竹 村 陽 子
 - 地区ガバナー・パストガバナー IMリーダー 友 重 正 親
 ガバナーエレクト・ガバナーノミニー紹介
 - 地区幹事・財務委員長紹介
 - 第3区分クラブ会長及び参加クラブ紹介
 - 地区ガバナー挨拶 RI2500地区ガバナー 靉 本 正 美
 - IMリーダー挨拶 IMリーダー 友 重 正 親
- 14:30 基調講演 (講演者紹介)IM実行幹事 石川千賀男
 講演 旭川工業高等専門学校 物質化学工学科 教授(工学博士) 古 崎 睦
- 演題「南極越冬物語」環境の鍵を握る氷の大陸
- 16:00 休憩
- 16:10 帰国報告会
- 講演者紹介・VTTについて IM副実行委員長 河 崎 高 麗 男
 - 報告 ○ 第2500地区VTT団長 旭川北RC 森 山 昌 彦
 - 第2500地区VTT団員 旭川歯科学院教師 荒 川 久 悦
- 16:40 閉会式
- 講評 RI第2500地区ガバナー 靉 本 正 美
 - 次期第3区分ガバナー補佐挨拶 富良野ロータリークラブ 高 田 忠 尚
 - 次期ホストクラブ挨拶 富良野ロータリークラブ会長 松 田 英 郎
 - 謝辞 IMリーダー 友 重 正 親
 - 閉会の挨拶 IM実行副委員長 桑 原 義 彦
 - 点鐘 IMリーダー 友 重 正 親
 - 諸事お知らせ SAA 宮 永 憲 一
- 17:10 懇親会(2Fウエストラーム) 司会 IMホストクラブ幹事 安 井 裕 子
- 友愛の宴
- 開会のことば IM親睦委員長 福 居 恵 美 子
 - 乾杯 RI第2500地区パストガバナー 清 水 哲 也
 - 開宴 アトラクション
 - ロータリーソング「手に手つないで」 ソングリーダー 妹 尾 佳 晴
 - 万歳三唱 RI第2500地区ガバナーエレクト 奥 周 盛
 - 閉会の挨拶 IM実行副委員長 飛 弾 野 正 幸
- 19:00

開会のことば

RI第2500地区第3分区
IM実行委員長
武田 昭宏

RI2500地区第3分区IM開催に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。本日のIMは葎本ガバナーを始めご来賓の皆様ようこそいらっしゃいました。心より歓迎申し上げます。又、分区内10クラブからは全員登録のもとIMを開催できましたことに厚くお礼申し上げます。

私ども旭川モーニングロータリークラブ IM実行委員会は昨年12月に立ち上げ友重ガバナーを中心に会員26名全員が準備を重ね本日を迎えることができました。

日本の南極越冬隊として第46次に参加をし帰国されました古崎教授に南極越冬物語と称して本日のIMテーマは「環境と水資源」です。環境の鍵を握る氷の大陸というタイトルで実際の越冬生活等々をスクリーンを通して講演があります。

私達ロータリアンが奉仕活動を続けていく上で示唆に富んだお話を伺えるのではないかと楽しみにして頂きたいと思います。その後の懇談会のアトラクションもユニークな企画準備しております。どうか時間の許す限りご歓談ください。本日率先してご参加を頂きましたロータリアンの友愛に感謝申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。



歓迎の挨拶

ホストクラブ
会長
竹村 陽子

本日は、葎本正美ガバナーをはじめとして、このように沢山のロータリアン各位のご出席を賜わり、心より感謝申し上げます。

20周年を迎えたばかりの当クラブでは、インターシティーミーティングも2回目となりますが、この数ヶ月、友重ガバナー補佐を軸にIM開催の意義を目標に、心を寄せ、智恵をしぼり、クラブが一つとなって準備して参りました。

一人一人に与えられた役割を、誠実にやり遂げていく事、責任と喜びを感じながら過ごしたこの期間は、私達にとりまして、大変意義深いものがありました。好意と友情のもとに、貴重な時間をさいてご参加頂きましたロータリアンの皆様にとって「来てよかった」と思ってもらえるように。

そして又、このIMが有意義な時間でありますことを願い、歓迎のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。





地区ガバナー挨拶

RI第2500地区ガバナー
薩本正美

本日はIMの開催おめでとうございます。友重ガバナー補佐はじめ、旭川モーニングロータリークラブの皆様ご苦労様です。第3分区は旭川IRCさんはじめ歴史のある名門クラブが多く、我が地区にとって、気品があり奉仕活動の活発な分区であります。

公式訪問を最初にさせて頂きました。私としては大変緊張しましたが、大きな試練は初めの方が良いと思えました。第3分区の皆さんが暖かく迎えて頂き、ホッと感謝しました。

さすが第3分区はRI2500地区の中心となる地域です。歴代の素晴らしいPDGを輩出しております。私も山本PDGの時にガバナー補佐をさせて頂き、ロータリーの勉強をさせて頂き、現在大いに役立っております。第3分区の皆さんに感謝しております。私がガバナーエレクトの時に我が第7分区以外のIMに初めて招待が来まして、とても嬉しく出席したことを思い出します。それ以来すっかり第3分区に親近感を抱いております。

次次期東堂ガバナーを旭川北RCさんから輩出して頂き、第3分区は燃えていると思えます。またEクラブの創設には旭川北RCさんをはじめ、第3分区の皆様のご尽力を頂きました。我が釧路ベイRC創設以来、実に17年ぶりの事です。地区内で一番新しいクラブの出身のガバナー年度に、新しいクラブが出来るのは、縁がある事を感じます。

なお、私の体調管理の不手際から、大事な地区大会に出席出来なかった事を、深くお詫びします。私はロータリーに入会して30年経ちますが、ガバナーのいない地区大会は記憶にありません。記録に残らないが、記憶に残るガバナーで申し訳ございません。残りの期間IMはじめ地区の行事は出来るだけ出席しますので、よろしく願います。

私は一貫して皆様に訴えている事は「ロータリーとの出会いに感謝」です。ロータリーを通じて皆様とお会いでき、ロータリー、人生を語る事は何にも増して、私の人生の宝です。楽しく奉仕し、他人のため、地域社会のため、国際社会のため役に立ちたいと思えます。ロータリーを大好きになって、おおいに語り合しましょう。今日のIMは大成功になる事を確信しています。



IMリーダー挨拶

第3分区ガバナー補佐
友重正親

雪国の旭川にも、ようやく春の訪れを感じられる今日この頃、第3分区IMを開催いたしましたところ、RI第2500地区ガバナー薩本正美ガバナーの御臨席を賜りましたこと、まことに光栄であります。また、分区内パストガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、地区役員のご出席をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。本日のIMには、分区内11クラブ、及び、北海道2500ロータリーEクラブ、分区外より下川ロータリークラブより1名のご参加をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

本年度のIMは、私たち旭川モーニングロータリークラブの研修テーマであります「水資源」について、旭川工業高等専門学校物質化学工学科の教授であります、古崎隆教授をお招きして、「南極越冬物語」(環境の鍵を握る氷の大陸)と題して、ご講演いただき、さらに今年度、世界最初のVTTで「タイ・プーケット」に行ってきた、RI第2500地区VTT団長、森山昌彦氏による帰国報告会を開催し、VTTに対する認識を深めてまいりたいと考えております。

懇親会は、会場を2階ウエストルームに移し、わがクラブの会員が総力を結集し、開催いたしますので、楽しみにしていただきたいと思えます。

多くの皆様のご出席をいただきましたこと心より感謝申し上げます。ご挨拶と致します。



ASUKA MORNING ROTARY CLUB

南極越冬物語



旭川工業高等専門学校
物質化学工学科

教授 古崎 睦氏
(工学博士)

<略歴>

ふるさき・あつし。渡島管内森町生まれ。国鉄職員だった父の転勤で、函館や木古内などの小中学校を転々とした。1987年、函館高専を卒業後、北大工学部に編入し、同大学院応用化学専攻の博士課程を修了。95年に旭川高専助手となり、99年から助教。2003年、南極観測隊員に応募し、雪氷の共同研究を担う越冬隊員に採用された。
(北海道新聞「ヒューマン」2006年5月7日掲載記事より)

環境の鍵を握る氷の大陸



セールロンダーネ山地
写真提供：国立極地研究所「南極観測」

南極地域観測隊員になるために・・・～自分自身の経験を振り返って

(1) 好奇心

初めて南極を意識したのは、学内に回ってきた「南極地域観測隊・設営隊員募集」の回覧を目にしたとき。「お金で行ける処じゃないし、何か面白そう！」その後1年半にわたる私の南極大作戦は、そんな子供じみた動機から始まりました。

大人になるにつれ(いや、ひょっとしたら中学生や高校生でも既に)、子どもの頃に誰もが持っていた「溢れんばかりの好奇心」をどんどん手放していませんか。好奇心のアンテナを張っていなければ、引っ掛かるモノも引っ掛かりません。どうか、アンテナを張り続けて下さい！

(2) 出会い

しかし現実には、やりたい何かが見えたとしても、その前に立ちちはだかる「扉」の何と大きく重いことか……。気持ちが萎んでしまいそうなそんな時、それでも尚「○○したい」という思いを声に出し続けることが大切だと私は思います。すると、その声を聞いてくれたどこかの誰か

が、思いも掛けないうちにその扉を開けてくれることがあるのです。

明日会うあの方がそのキーマンかもしれません。人との出会いを大切に！

(3) 決断

私の場合、図らずも扉が開いたとき、その扉を閉めようとするのは他でもない自分自身でした。ワクワクの想いだけで動き始めたことがいざ現実のこととなり、その責任の大きさに初めて気がついたとき、正直ビビってしまったのです。もし、その不安に負けて「また今度にします・・・」なんてことを口走っていたら、私は決して南極には行けなかったと思います。

「自分などいなくても地球(職場・家庭)は回る」。どうかファーストチャンスを見逃さないで！

(4) 健康

南極越冬隊という特殊性ゆえ、派遣に当たっては頭のてっぺんから足のつま先まで、ガッチリと検査を受けます。網膜裂孔の診断を受けた



写真提供：国立極地研究所「南極観測」

私は、在旭中にレーザー手術を余儀なくされ、また併せて虫歯も再点検しました。

ただ思うに、身体の健康も勿論大切ですが、実は心の健康がそれ以上に重要かも・・・と感じています。こと観測隊員について言えば、神経回路が数本切れているくらいの「鈍感さ」がちょうど良いのでは？と。日頃、「鈍い」「大雑把」「がさつ」などと言われ肩身の狭い健康体のあなた、越冬隊員にはピッタリかも……。



写真提供：国立極地研究所「南極観測」



写真提供：国立極地研究所「南極観測」



旭川工業高等専門学校 物質化学工学科の古崎隆教授(工学博士)が、第46次日本南極地域観測隊の越冬隊員として南極で過ごした14カ月を振り返る「南極見聞録」。南極を出発してから帰国するまで、帰国後の変化について。

■生命に「奇跡」感じる

06年の3月に帰国後、南極に関する講演や執筆をさせて頂く度に、そして社会復帰を果たした46次の隊員達と再会し杯を酌み交わす度に、自分にとってあの1年4ヶ月は何だったのか、どんな意味を持ち、何を授けてくれたのか、何度も考えることがあった。連載の締めくくりとして、帰国直後、そして今、改めて

思うこと・感じることを率直に記してみたい。

南極での全ての任務を終え帰国を目前にした我々は、オーストラリア・シドニーに立ち寄った。3月末、晩夏のシドニーは連日汗ばむような暖かさで、緑豊かな木々が風にそよぎ、色鮮やかな花々が咲き誇り、賑やかな鳥が頭上を飛び交っていた。生命を全く感じない氷点下数十度の白い世界がもはや「日常」となっていた我々にとって、久々に目にするその命溢れる光景は、大袈裟に言うところ「奇跡」そのものであった。

帰国後に見たテレビ番組「プラネットアース」で、北極から熱帯へ緯度を下って行くにつれ、一面雪氷

の世界が永久凍土となり、やがてツンドラ→タイガ→広葉樹林→熱帯樹林へと移り変わってゆく様が放映されていた。その映像を見たとき、あのシドニーの光景と相まって、「ああ、地球(生命)は太陽によって生かされているんだなあ…」ということを心から実感した。

以来、南極では基本的に見られない雪や虹はもちろん、ありふれた雲や雨、星や月にさえ、新鮮さや神秘さを覚えることが多くなったような気がする。

■ケータイに疑問

一方、帰国直後、成田のホームで電車を待ちながら感じたのは、「ケータイ」に支配されている街(国?)の不気味さであった。ホームに立つ人の9割が、そして車内にいる人の半数がケータイを見つめており、正直「何なんだこの国は…」と思ってしまった(シドニーではそのような思いをした記憶が全くない)。



ケータイに疑問

その後、JR北海道の車内誌に載っていた倉本聡氏の文を目にしたとき、「さもありなん」と大きく頷いてしまった。人が生きる上で必要不可欠なモノを挙げてもらったところ、都会の若者はケータイ・車・テレビ…と答え、一方富良野塾の塾生はナイフ・水・火(燃料)…と答えたそうで、そんな塾生を私は誇りに思う、というような内容だったと思う。私が挙げる品々は正に塾生と同じであるが、ナチュラルリストでも何でもない自分が、今、文明生活にどっぷり浸りながら、それでもその重要目つ単純な事実気づくことができたのは、シンプルな南極生活を経験してきたからなんだろうな…と思っている。

■日本の速さととまどう

また、帰国から数日が経ち、社会復帰・職場復帰を目指す過程ですぐ感じたのは、日本社会の「速さ」と「複雑さ」である。

南極では「頑張らない(過ぎない)」ことが大切である。氷点下40度・風速十数メートルの条件下で雪上車を整備しなければならないとき、寒さ・冷たさを我慢する前で作業を切り上げ、十分に暖をとった後に再び作業に戻ることが常識だったし、そんなやり方を皆が認める社会(文化)があった。その習慣が私にとって実に心地よいものだったの

だろう。帰国後もついつい15分仕事して15分休んで…とやっていたのだが、当然のことながら、そんなに仕事になる訳がない。自然が許してくれる範囲内で出来る限りのことをする世界と、そんなことは全くお構いなしに次々とクリアすべき事柄がやってくる世界と、そのギャップに随分と苦しんだ。

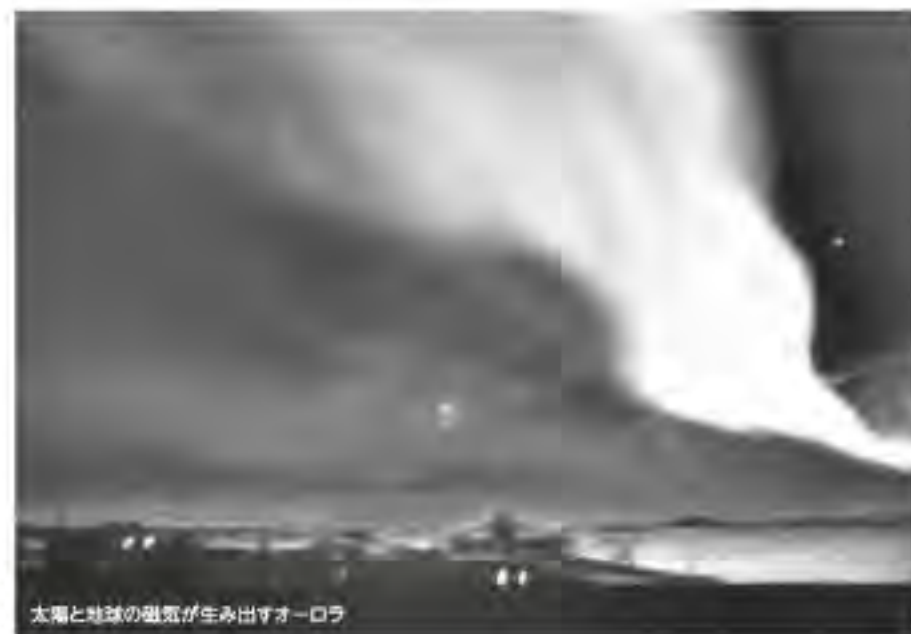
また日本では、異なる仕事を複数同時に進めることが当たり前に行われている。私の場合、それは授業であり、クラブ指導であり、学会発表であり、また、ボランティア活動であり、近所付き合いであり…。ところが、これができなくなった!それらの一つ一つが十分手間のかかるこ



同時に物事を進めることができなくなった

となのに、それを複数同時に進めるなんて…。同僚が事も無げにこなしている姿を見て、「皆凄いなあ!俺には到底出来ない…」と何度も落ち込んだ。

(北海道経済掲載記事より抜粋)



太陽と地球の熱気が生み出すオーロラ



写真提供：国立極地研究所「南極越冬」

■それでも良かった

そして、社会復帰の際に何よりも苦しかったのは、本来基盤となるべき家族(家庭)が帰国直後に大きく揺らいだことであろうか。

観測隊員へ応募したことも事後報告……。私は一事が万事、そんな重大なことでさえ家族に相談もしないままコトを進めるような自分勝手な人間であったから、結果、帰国後そう時間をおかずに独り身に戻ることになった。互いの家への説明、様々な手続き、そして引っ越し。それだけでなくとも社会復帰にもがいている最中、これまでに経験したことのない出来事に莫大なエネルギーを費やし、かなり鈍感で楽観的な自分もさすがにしばらくの間は心定まらない日々を送ることになった。

大切な家族を幸せに出来なかったことは何とも情けない限りであるが、しかし、誤解を恐れずあえて言うならば、「それでもやっぱり南極へ行って良かった!」と思っている。得るものを得て、失うものを失って、その上で気づいたこともたくさんあった。

残念ながら、時間の経過とともに私の「南極」はどんどん過去のものになりつつある。がしかし、経験を通して一度手にした「宝物」は決して色褪せたり消え去ることはなく、これからの生きる道にも大きな影響を

及ぼし続けることは間違いないと思う。

今後、会社等の研修会や学校の講演会、町内会のイベントなど、講演の機会を頂けたならば喜んで馳せ参じますので、学校宛て(旭川高等、0166-55-8044)にお気軽にご連絡下さい。

■頑張らないことも大切

南極で感じたことはいくつもありますが、第一に、「草木が生え、花が咲き、生き物が行き交うというのは凄いことなんだ」ということです。命は太陽によって生かされているのです。それから、プリザードの中で「人間が闘うことは無意味だ。人はただ従うのみ」ということを痛感させられました。

私自身は頑張る(ってしまう)方

なのですが、南極では「頑張らない」ことの大切さを教えられました。南極で頑張るとすぐ凍傷になってしまいます。もし入院でもしたら、その人の仕事は誰かがフォローしなければなりません。37人が皆大切な仕事をもっているのです、1人がコケても大変です。だから頑張る手前で、我慢をする手前で止めることの勇気を、徹底して先輩隊員から教わりました。

最後に、南極での経験を今後、本職である教職にどう生かせるかは今もってわかりませんが、段取りの大切さ、リーダーのあり方、これからの生き方、といったことを勉強させて頂きました。本日はご清聴ありがとうございました。

(北海道経済掲載記事より抜粋)



大型短波レーダーアンテナ 写真提供：国立極地研究所「南極越冬」



帰国報告会①

第2500地区VTT団長 旭川北RC

森山昌彦

第2500地区VTT団員 旭川歯科学院教師

荒川久悦

この度、国際ロータリー第2500地区から派遣されたVTT団長として一言、ご挨拶申し上げます。親愛なる国際ロータリー第3330地区の皆様、今日は、皆様にお会い出来て大変嬉しく思いました。

今回、日本の私達国際ロータリー第2500地区からのVTT (Vocational Training Team) 歯科研修チームを快く受け入れて下さり、尚且つ会員の方々から心温まるおもてなしを受けてきたことに対して感謝と敬意を表します。

私達の国際ロータリー第2500地区というのは、日本全国に34の地区がある中で、日本の最北端にあります。当地区、国際ロータリー2013~2014年度榎本正美(よしもとまさみ)ガバナーより第3330地区の皆様によるしくお願いします、とのメッセージをもらってきました。

今回の私達の歯科研修VTTは、皆様ご存知の国際ロータリー2013~2014年度の未来の夢計画による財団のグローバル補助金を利用したもので、今回我々のVTTは、日本全国34地区の中で国際ロータリー財団の認定第1号を聞いております。

(次ページへ)





帰国報告会②

歯科医療研修支援を主とする今回のVTTは、歯科医師でロータリアンを私を団長として、3人の歯科衛生士(荒川久悦、金盛扶美江、青木美奈)と1人の歯科技工士(平野太一)の5人で結成されました。受け入れ地区として、過去にGSE相互派遣等で友好関係にある皆様方の国際ロータリー第3330地区となり、今回私共が派遣されました。

今回短い時間ではありましたが、私達に与えられた任務、活動は充分ではありませんが、ほぼ遂行出来たと思っています。プーケットの歯科医療事業の良いところも学ばせていただきました。これは一重に、皆様方の各クラブ会員方による強力な御支援と御協力によるものと、団員一同心より感謝申し上げます。各クラブ会員の方々には、お忙しい中、サポートをいただき、心温まるおもてなしをいただき本当にありがとうございました。

今回のVTT活動の結果は、後日国際ロータリー財団にしっかり報告し、皆様方にもお示しします。

次年度国際ロータリー2014～2015年度には、皆様方第3330地区からのVTTをお迎えする予定です。心からの歓迎を申し上げたいと思っています。今回のVTTの活動を通じて、両地区の友好関係のみならず、このロータリー財団を通じて、タイと日本の親善、友好関係が更に深まり、実のあるものになるよう寄与出来たら、この上ない幸せに思います。大変ありがとうございました。



講評

2013～2014年度
RI第2500地区ガバナー
殿本正美



こんにちは、RI2500地区ガバナーの殿本です。本日のIMが盛大に開催されたこと、おめでとうございます。大変珍しく、貴重な「南極」のお話を聞けて、大変勉強になりました。

講演の中で、先生がおっしゃっていた南極大陸調査団のお話は、ロータリーの活動にも通じるところがあると思います。1.「好奇心」…興味のアナテナを張り続ける。2.「出会い」…人との出会い、関係を大切に。3.「決断」…ファーストチャンスを見逃さない。4.「健康」…身体と心を穏やかにそして丈夫に。この4つの言葉は実に味わいのある言葉です。

さて私の体調管理の不振から、地区大会に出ることができず、皆さんにご迷惑をおかけしました。櫻田PDGに、アクティング・ガバナーになっていただき、無事地区大会を開催出来ました。私はロータリアンになって30年以上になりますが、ガバナーのいない地区大会は初めてです。まさか私がそうなるとは思いませんでした。記録に残らないけれど、記憶に残るガバナーに

なっていました。病気になり、皆様に心から感謝できるようになりました。しかし北海道2500ロータリーEクラブの認証状にはしっかり私の名前は残っています。またRI3590地区の姉妹地区認証状にも私の名前があります。

このことで、多くの人のありがたさが分かるようになりました。まさに「ロータリーとの出会いに感謝」です。実にこの標語が素晴らしい事を実感しています(自画自賛)。私は今は元気になり、残りの2か月、IM、周年記念行事、講演に全力を尽くしますのでよろしくお願い申し上げます。

釧路から旭川までは320kmあります。大変遠い所です。我が地区は日本一広大な地区と実感します。これから、稚内、名寄でのIMが残っております。他の地区ではIMをする地区が少なくまたガバナーが出席することがないそうです。しかし公式訪問、IMに出席して、皆さんと仲良くなれることは、私にとっては最高の幸せであります。人生の宝です。これから地区の行事に参加することが、一層楽しみになることでしょう。



私は一歯科医で、従業員も5人の普通の歯科です。出身クラブである釧路ベイロータリークラブも、地区内で1番新しいクラブですが、成田会長の元で、とても団結力のあるクラブです。スタート時は19名(現在24名)のクラブです。それにもかかわらず、PETS、地区協議会、公式訪問、各セミナー開催、地区大会、IM訪問出席、日本7ベイロータリー集会、北海道2500ロータリーEクラブ設立、シドニー国際大会参加と、あらゆる事をさせていただきました。漆崎地区幹事、春日地区財務委員長を筆頭にクラブの皆様にお世話になりました。

春日財務委員長は、現在クラブの幹事、次年度会長エレクト、地区財務委員長、会計、公式訪問の同行、



地区大会の重大な采配と今までの常識が通じない活躍をしていただきました。クラブの皆さんはお二人のリーダーシップの元で見事に団結してくれました。クラブの歴史、クラブの大きさではなく会員の団結力と気概です。

私は7月から一会員に戻ります。久々の親睦委員長です。私が皆様に言い続けていた「ホッとするクラブ」を作ろうということが、実践できるかどうか心配しています。ガバナーの役職が終われば、一クラブ会員に戻ることが、自分にとっても、クラブにとっても重大なことです。私は皆さんに恩返しをしようと思います。私は来期から、職業分類の歯科医ですので、仲良く公平にお付き合いしてください。よろしくお願いします。

私は、ガバナーとしての能力が低い割には、持って生まれた「ツキ」のおかげで、実績はすごく大きかったものと思っています。これも特に第3分区の皆さんのおかげです。

第一に、北海道2500ロータリーEクラブの設立です。旭川北クラブの東堂GNの熱意と情熱のおかげです。我が釧路ベイRCが出来てから美

に17年ぶりのことです。そのクラブのガバナー年度ということは縁を感じています。全国でガバナーの皆さんはチャレンジしましたが、PDGの反対で出来ないそうです。私が入院して寝ている間にクラブが出来たことに、久保ガバナーは驚いていました。チャーターナイトでは多めに感動させて頂きました。みんなで精神的に援助を行い、大切に育てましょう。

第二に、「タイのプーケット県に於けるデンタルVTT(職業研修セミナー)」です。旭川北RCの森山昌彦先生に団長になっていただき、タイのプーケット県に行きました。森山団長以下団員はデンタル奉仕として、地域の歯科に対する公衆衛生活動に多に貢献していただきました。今年は財団の「未来の夢計画」の最初の年です。このプロジェクトは日本で唯一実行されたものです。世界で一番最初に実行されたプロジェクトです。森山団長のご苦労は大変なものであったと思います。私も少し関係しておりますが、笹谷財団副委員長、VTT福井委員長の努力で実現されました。3年かかりました。本当にご苦労様でした。ロータリーの友に4



ページの記事になりました。森山団長は全国の財団セミナーで発表されました。皆さんから驚きと、多に賞賛されました。

第三に、美瑛RCが地区補助金を使いRI3330地区に国際奉仕として、図書を送りました。クラブを通じて国際奉仕に触れることは大変意義のあることです。各クラブでは、GGではありませんので、壁が低いので、ガバナー補佐、地区補助金委員長と相談され、多にチャレンジしてください。

第四は、財団のグローバル・ブランド(GG)を利用してRI3330地区のスラタニに大型の浄水器を7機設置しました。7000\$の高価なものでしたが非常に立派なもので、処理能力は今までの浄水器の10倍はあると

思います。余った水を自動販売機を付けて、水を売ったお金で、メンテナンスをしようとしています。このプロジェクトの予算は、我が地区で100,000\$、新潟の地区で100,000\$、RI3330地区で50,000\$、ロータリー財団から250,000\$でした。

第五は、ガバナー補佐の皆様と地区事務所の方々に「股本セミナー」をしていただきました。自分の話したいことをかなり話させていただきました。また久々に夜を徹してロータリー談義をさせていただきました。とても楽しい時間を過ごすことができました。IMの余興でチンドン屋を呼んでいただき、大いに盛り上がりました。私は賑やかなことが大好きですので、とても感激しました。

旭川モーニングRCは会員が増えて勢いづいています。我がクラブも同じような規模ですので改めて頑張る気持ちになりました。やはり人数が多いと、すごく楽しいですね。我々RI2500地区は人口が少なく過疎化中でロータリー活動を頑張っております。公式訪問で各クラブにお邪魔したとき、皆様は悪い条件の中、地域に対する奉仕活動をされており、

ロータリーに対する情熱、熱意に感動させられました。皆さん職業奉仕をしっかりとっております。職業奉仕について考えるべきという人がいますが、実情を見ていない人で、ロータリー情報だけでものを見ている方だと思います。

3月22日にロータリー財団の研究会で第2ゾーンのロータリー財団コーディネーターの江崎PDGが挨拶で紹介されていた話をします。アメリカの権威のある会社で、企業を分析しアドバイスする会社に、国際ロータリーの分析を行ってもらい、アドバイスをしてもらいました。その結果、「国際ロータリーの活動は素晴らしい、世間一般から尊敬され、大いに期待されている団体である」という高い評価をいただきました。しかし、我々には大きな欠点があります。それは「国際ロータリー、各クラブの奉仕活動、世間からのクラブに対する評価は高く、会員自身の国際ロータリー、自分のクラブに対する評価が低く、会員自身が社会の高い評価について誇りを思っていない」ということです。

今年私は「謙えよ、地域を、クラブを、会員(自分を)」を標語としてロー



タリー活動をするように皆様に訴えました。私の考えが時代に合っていることを実感しました。各クラブの会長の多くの支持を受け、会長方針に入れていただきました。改めて皆さんに、我々の活動に自信と誇りを持つことを訴えます。短所を見ないで、長所を伸ばしましょう。長所が短所をカバーするようにしましょう。

また、今年は一貫して「ロータリーとの出会いに感謝」を皆さんに言い続けています。私は理屈抜きにロータリーが好きです。ガバナーにさせて頂き、ロータリーを通じて素晴らしい新しい仲間ができたことは、人生の大きな財産です。このような素晴らしい会が他にあるでしょうか。たくさんの方と知り合い、仲良く、大いにロータリーを楽しみましょう。



次期第3分区 ガバナー補佐 挨拶

富良野ロータリークラブ
高田忠尚

御紹介を頂きました次期第3分区ガバナー補佐を拝命致します富良野ロータリークラブの高田忠尚です。

私は1982年に富良野ロータリークラブに入会し、何と情熱的な親睦と自己研鑽を基に、奉仕活動をする団体なのかと魅力を持ちながらも、退会、2007年再入会、クラブ役員、会長を務め、このたび第3分区の御支援を頂いて、次期ガバナー補佐として、週日ガバナー補佐会議の席上、次年度ガバナー奥周盛エレクトより委嘱状を賜った所であり、生来の武骨者であります。第3分区クラブ各位の御支援を頂いて、務めさせていただきます。

ロータリークラブが創設110年、世界中のロータリアンが地域社会に貢献し、クラブ奉仕で学び、経験する喜びが高潔性と高い倫理観の共有に結びついているからであります。

ロータリークラブの活動規準である五大奉仕部門を第3分区の皆様と学び、経験していきたいと考えております。

結びに友重第3分区ガバナー補佐、旭川モーニングロータリークラブの有意義なIM開催をたたえ、旭川モーニングRCの増々の御発展を祈念申し上げ挨拶と致します。



次期ホスト クラブ挨拶

富良野ロータリークラブ会長
松田英郎

第3分区IM開催地、今年度富良野クラブ会長松田英郎と申します。

長らくお待たせしましたが1996-97年度以来の富良野でのIM開催です。一日でも早く開催したいので来年の昨日、4月4日としました。これから一年をかけて、総力をあげてじっくり内容を練って、皆様に喜んでいただけるような楽しく、有意義なインターシティミーティングを主催させていただきます。

クラブ会員全員の精一杯のおもてなしをご期待ください。

IM収支決算書

収入の部

科目	金額	摘要
会員登録費	1,960,000	392名×5,000円
2500地区補助金	100,000	
御祝儀	10,000	
合計	2,070,000	

支出の部

科目	金額	摘要
総務費	233,937	
会場費	1,531,699	
印刷代	254,364	
講師料	50,000	
合計	2,070,000	

登録会員数

クラブ	登録会員数	IM出席数
旭川	68	47
旭川西	51	37
富良野	46	27
旭川北	43	35
旭川東	39	28
旭川南	28	21
上川	14	10
美瑛	20	17
旭川東北	17	13
旭川空港	19	15
北海道2500地区Fクラブ	18	12
下川	1	1
2500地区ガバナー事務所	2	2
旭川モーニング	26	25
合計	392	290



蔵本ガバナー、友重ガバナー補佐
ロータリーは楽しいが一番



手に手つないで
次年度ホストクラブ
富良野ロータリークラブへ...

2013～2014年度 RI第2500地区 第3分区IM役員

RI第2500地区ガバナー	蔵本正美	IMリーダー(第3分区ガバナー補佐)	友重正親
RI第2500地区パストガバナー	七戸幸夫	ホストクラブ会長(旭川モーニングRC)	竹村陽子
RI第2500地区パストガバナー	清水哲也	ホストクラブ幹事(旭川モーニングRC)	安井裕子
RI第2500地区パストガバナー	豊島弘通		

2013～2014年度 第3分区IM役員実行委員会

実行委員長	武田昭宏			
実行副委員長	川崎高麗男 (総務・SAA)			
//	桑原義彦 (記録・会計)			
//	飛弾野正幸 (総務・教養)			
実行幹事	石川千賀男			
実行副幹事	宮永憲一			
委員会	委員長			
総務	小柳裕子	嵯城俊明	井上雄樹	
記録 (懇親会担当)	福西憲美子	小川伸治	笹川和廣	佐藤克司
		竹村陽一	木村和哉	
記録	脇坂慎一	高見一典	佐々木靖文	
SAA	宮永憲一	妹尾佳晴		
教養	吉田美喜子	小野寺康亮		
会計	竹澤元男	大久保昌宣		



ASAHIKAWA MORNING ROTARY CLUB

国際ロータリー第2500地区第3区分

2013～2014年度 IM(都市連合会)記録

2014年7月発行

記録編集 IM運営実行委員会
発行者 旭川モーニングロータリークラブ
印刷所 植平印刷株式会社